学校番号	２０８

平成 31 年度　芸術科（書道）

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「書Ⅱ」　（光村図書）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・書道Ⅱでは既習の書道Ⅰをさらに深め、個々の表現を追求していきます。篆隷行草から楷書に至るまで様々な書体を体験し、筆の弾力を使いこなし、自分らしい文字を書くことが出来るようになることをめざします。
・身近に飾れる作品を作ることで達成感を味わい、書を愛好する心情を育てます。
・用具・用材の準備や管理、作品、作品集の提出これらに留意してください。

2　学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している	創造的な書表現をするために、書の効果的な表現の技能を身に付け表している。	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	観察 ワークシート 作品集	観察 ワークシート 作品集 作品提出	観察 ワークシート 作品集 作品提出	観察 ワークシート 作品集 作品提出

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	漢字の書(篆書・隷書・草書・篆刻)	【篆書】 ・甲骨文・泰山刻石 【隷書】 ・曹全碑 ・篆書・隷書創作(色紙) 【草書】 ・十七帖・書譜 草書創作(一字書)	○	○	○	○	a: 篆書、隷書、草書に関心を持ち、様々な古典の書風の特徴を理解しようとしている。 b: 各古典の字形や用筆などの特徴をとらえ、書風を生かした表現を工夫している。 c: 各古典の字形や用筆などの特徴をとらえ、書風を生かした表現をすることができる。 d: 古典の書美とその表現技法を理解している。	観察 ワークシート 作品集 作品提出
2学期	漢字の書(行書・楷書)	【行書】 ・集王聖教序・祭姪文稿 【楷書】 ・孟法師碑・始平公造像記 ・篆刻(七分・朱文)	○	○	○	○	a: 行書・楷書に関心を持ち、様々な古典の書風の特徴を理解しようとしている。 b: 各古典の字形や用筆などの特徴をとらえ、書風を生かした表現を工夫している。 c: 各古典の字形や用筆などの特徴をとらえ、書風を生かした表現をすることができる d: 古典の書美とその表現技法を理解している。	観察 ワークシート 作品集 作品提出
	漢字仮名交じりの書	・漢字仮名交じり書とは ・字形・書風・墨色・線質・全体構成 ・古典を基に書く ① 重厚な表現を祭姪文稿に学ぶ ② 清澄な表現を集王聖教序に学ぶ	○	○	○	○	a: 漢字仮名交じりの書の表現に意欲的に取り組み、表現の構想から完成に到るまでの充実感や達成感を味わおうとしている。 b: 感興や意図に応じた表現を構想し、工夫している。 c: 古典に基づく表現を工夫している。また、表現形式に応じて、全体の構成を工夫している。 d: 書表現により、自らの思いを他者に伝えることができることを理解している。	観察 ワークシート 作品集 作品提出

3学期	漢字・仮名・漢字仮名交じりの書	・色紙創作 ・漢字一字～四字 ・俳句 ・ことわざ ・名言	○	○	○	○	a: 漢字・仮名・漢字仮名交じりの書に関心を持ち、積極的に理解しようとしている。 b: 線質や字形の特徴などを理解し、書風・書体を生かした表現を工夫している。 c: 線質や字形、用筆・運筆の特徴をとらえ、書風を生かした表現をすることができる。 d: 色紙作品の美とその表現技法を理解している。	観察 ワークシート 作品集 作品提出

※　表中の観点について　a:書への関心・意欲・態度　b:書表現の構想と工夫
c:創造的な書表現の技能　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。